



江 民 捷 先 生

戒能民江教授の略歴・業績

生年月日 1944年 9 月13日生 本籍地 東京都

学 歴

1967年 3 月 早稲田大学第一法学部卒業
1969年 3 月 早稲田大学大学院法学研究科修士課程基礎法学専攻修了
1973年 3 月 早稲田大学大学院法学研究科博士課程民事法学専攻単位取得満期退学

職 歴

1979年 4 月 東邦学園短期大学商経科非常勤講師
1980年 3 月 日本福祉大学社会福祉学部非常勤講師
1982年 4 月 三重大学人文学部非常勤講師
1991年 4 月 東邦学園短期大学商経科助教授
1996年 4 月 東邦学園短期大学商経科教授（～1999年 3 月）
1999年 4 月 お茶の水女子大学生活科学部教授
2002年 4 月 お茶の水女子大学評議会評議員（～2004年 3 月）
2004年 4 月 お茶の水女子大学生活科学部長（～2006年 3 月）
2006年 4 月 お茶の水女子大学教育研究評議会評議員（～2007年 3 月）
2007年 4 月 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授
2008年11月 お茶の水女子大学生活科学部長（～2009年 3 月）
2009年 4 月 お茶の水女子大学理事・副学長（総務機構長）
2011年 3 月 同上退職、同上名誉教授・客員教授、放送大学足立学習センター客員教授（～現在に至る）

学会・社会的活動（現職）

1. 学会等

日本学術会議第21期・第22期会員（第一部所属）
比較家族史学会会長（2008年～2011年）
ジェンダー法学会理事（2003年～2005年同理事長）
日本法社会学会理事
民科法律部会副理事長
日本女性学会会員（2000年～2002年同代表幹事）
日本家族〈法と社会〉学会会員
子どもの人権研究会共同世話人

2. 社会的活動

厚生労働省精神障害の労災認定基準専門検討会セクシュアルハラスメント事案分科会委員
独立行政法人科学技術振興機構科学コミュニケーション推進委員会委員
独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会委員

千葉県DV防止・被害者支援基本計画管理委員会会長
 埼玉県配偶者からの暴力防止・被害者支援基本計画策定委員会会長
 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会評議員
 財団法人せんだい男女共同参画財団理事
 葛飾区男女平等推進審議会会長
 国立女性教育会館「配偶者からの暴力被害者支援官官・官民連携促進ワークショップ」企画委員会
 委員長
 人身売買禁止ネットワーク共同代表

業 績 (2011年6月現在)

著書

1. 山下泰子・辻村みよ子・浅倉むつ子・二宮周平・戒能民江編『ジェンダー六法』信山社、総頁759、2011
2. 国際女性の地位協会、山下泰子、辻村みよ子、浅倉むつ子、戒能民江編集『コンメンタール女性差別撤廃条約』尚学社、総頁565、2010
3. 戒能民江編著『国家・ファミリーの再構築—人権・私的領域・政策』作品社、総頁281、2008
4. 戒能民江編著『DV防止とこれからの被害当事者支援』、ミネルヴァ書房、総頁281、2006
5. 戒能民江、浅倉むつ子、若尾典子『フェミニズム法学』明石書店、総頁424、2004
6. 戒能民江、角田由紀子『キャンパスのセクハラ対策—調査・紛争処理編』高等教育情報センター、総頁225、2004
7. 戒能民江『ドメスティック・バイオレンス』不磨書房、総頁238、2002
8. 戒能民江編著『ドメスティック・バイオレンス防止法』尚学社、総頁261、2001
9. 戒能民江監訳・解説アムネスティ・インターナショナル編『女性に対する暴力と虐待』現代人文社、総頁77、2001
10. 戒能民江、角田由紀子、内藤和美、服部範子、原田恵理子、ゆのまえ知子、吉浜美恵子『ドメスティック・バイオレンス』有斐閣、総頁230 1998
11. 戒能民江、若尾典子、吉田あけみ、久武綾子『家族データブック』有斐閣、総頁298、1997
12. 戒能民江、山下泰子、植野妙実子、神尾真知子『法女性学への招待』有斐閣、総頁267、1996
13. 戒能民江『ドメスティック・バイオレンス—取り組み先進国における法制度』神奈川県立かながわ女性センター、総頁10、1996
14. 戒能民江、坂田千鶴子、平林美都子共訳『狙われる子どもの性』(Judith Ennew、The Sexual Exploitation of Children、1986) 啓文社、総頁261、1991
15. 戒能民江、小林敬和、伊藤裕、武川真固『法学レクチャー』啓文社、総頁267、1989
16. 戒能民江、小林敬和、伊藤裕『新修民法講話』啓文社、総頁282、1984

論文

1. 戒能民江「私的領域における性差別撤廃の現状と課題—家族および「女性に対する暴力」を中心に」国際女性の地位協会他編『コンメンタール女性差別撤廃条約』明石書店、47-59、2010
2. 戒能民江「女性の人権と女性差別撤廃条約」教育と文化58号、27-34、2010
3. 戒能民江「ドメスティック・バイオレンスの現状と課題」月刊東京301号、23-28、2009
4. 戒能民江「DV政策と女性の人権」人権文化を育てる会編『私と人権』明石書店、62-69、2009

5. 戒能民江「性差別禁止法制の変容」法律時報増刊『改憲・改革と法』241-247、2008
6. 戒能民江「東アジアにおけるジェンダー・ポリティクスの一断面」戒能民江編『国家／ファミリーの再構築』作品社、250-275、2008
7. 戒能民江「セクシュアル・ハラスメントの司法的救済とその限界」F-GENSジャーナル編集委員会編F-GENSジャーナル第7号、214-222、2007
8. 戒能民江「DV・子ども虐待」ジュリスト増刊民法の争点、342-343、2007
9. 戒能民江「女性への暴力と支援サービス」岡本民夫ほか編『社会福祉エンサイクロペディア』中央法規、974-977、2007
10. 戒能民江「婦人保護事業から女性支援事業へ」東京都社会福祉協議会編『売春防止法制定50周年記念誌』18-19、2007
11. 戒能民江「DV法第一次改正の意義と限界」DV法を改正しよう全国ネットワーク編著『女性たちが変えたDV法』新水社、132-142、2006
12. 戒能民江2006「日本における女性の人権政策課題」F-GENSジャーナル編集委員会編F-GENSジャーナル第5号、81-85、2006
13. 戒能民江2005「DV法制定から改正へーその意義と課題」国際女性19号、76-84、2005
14. 戒能民江「ジェンダー法学と暴力の再解釈ージェンダー研究のフロンティアに向けて」F-GENSジャーナル編集委員会編F-GENSジャーナル第3号、24-30、2005
15. 戒能民江「司法とジェンダー」日本婦人団体連合会編『女性白書2004』ほるぷ出版、126-129、2004
16. 戒能民江「日本におけるジェンダー法学」東北大学21世紀COEプログラム出版委員会編『ジェンダー法研究叢書第3巻ジェンダー法学・政治学の可能性』東北大学出版会、71-81、「家族法とジェンダー」同、261-269、2004
17. 戒能民江「母子福祉とドメスティック・バイオレンス」竹中哲夫ほか編『新・子どもの世界と福祉』ミネルヴァ書房、167-185、2004
18. 戒能民江「市民生活における暴力論」竹村和子編『ポスト・フェミニズム』作品社、130-134、2003
19. 戒能民江「出会い系サイト規制法と子どもの人権」戸籍時報559号、38-46、2003
20. 戒能民江「実効性あるDV法改正を」とうきょうの自治51号、8-12、2003
21. 戒能民江「セクシュアル・ハラスメント対策はなぜ進まないのか」科学73巻9号、936-938、2003
22. 戒能民江「DV被害者の安全と人権を尊重する対応を行うために」月刊福祉86巻8号、42-45、2003
23. 戒能民江「暴力とジェンダー」教育評論683号、70-73、2003
24. 戒能民江「ジェンダー法学の可能性」法学セミナー49巻4号、70-73、2003
25. 戒能民江「ドメスティック・バイオレンス」ジュリスト1237号 146-155、2003
26. 戒能民江「ドメスティック・バイオレンス防止法と女性に対する暴力」北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”編『ジェンダー白書1女性に対する暴力』明石書店、28-48、2003
27. 戒能民江「女性に対する暴力」浅倉むつ子監修『ジェンダー法学』不磨書房、130-169、2003
28. 戒能民江「日本社会における女性の人権と法」榎澤能生ほか編『法社会学への誘い』法律文化社、136-155、2002
29. 戒能民江「配偶者暴力防止法の意義と課題」市民政策22号 10-21、2002

30. 戒能民江「セクシュアル・ハラスメント防止体制をどう構築するか」大阪経済法科大学法学研究所紀要34号 67-85、2002
31. 戒能民江「女性に対する暴力とジェンダー規範」お茶の水女子大学「グローバル化とジェンダー規範」に関する研究会『グローバル化とジェンダー規範』47-53、2002
32. 戒能民江「台湾におけるDV防止法について」、「日本のDV防止法成立と問題点」アジア・太平洋人権情報センター編『ドメスティック・バイオレンスに対する取り組みと課題』現代人文社、19-22.28-37、2001
33. 戒能民江『「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」と諸外国のドメスティック・バイオレンス防止立法の現状』アディクションと家族18巻3号、295-303、2001
34. 戒能民江「配偶者暴力防止法と諸外国のドメスティック・バイオレンス防止立法」法律のひろば54巻9号 25-33、2001
35. 戒能民江「人権救済制度のあり方を考える」ジュリスト1196号 15-20、2001
36. 戒能民江「女性に対する暴力防止法の動向と課題」労働法律旬報1487号 30-39、2000
37. 戒能民江「男女共同参画社会基本法」法学セミナー44巻2号 64-67、2000
38. 戒能民江「ドメスティック・バイオレンスと社会政策」佛教大学総合研究所編『ジェンダーで社会政策をひらく』ミネルヴァ書房 28-36.133-158、1999
39. 戒能民江「問われる大学の責任」大学時報268号 30-35、1999
40. 戒能民江「家族と暴力」国立婦人教育会館研究紀要2号 3-12、1998
41. 戒能民江「女性に対する暴力と女性の人権」都市問題研究50巻9号 30-43、1998
42. 戒能民江「条約と家族法改正」国際女性11号 158-161、1997
43. 戒能民江「ドメスティック・バイオレンスと性支配」岩村正彦他編『岩波講座現代の法11. ジェンダーと法』岩波書店 281-311、1997
44. 戒能民江「法律学とジェンダー論」労働法律旬報1399/1400合併号 33-38、1997
45. 戒能民江「イギリスにおける高齢者介護」石川恒夫ほか編『高齢者介護と家族』信山社、173-198、1997
46. 戒能民江「女性の人権、女性に対する暴力、女性と健康」かながわ女性ジャーナル14号、1996
47. 戒能民江「家族法を考える」季刊教育法101号 112-120、1995
48. 戒能民江「夫婦間扶養と何か」婚姻法改正を考える会編『ゼミナール婚姻法改正』日本評論社 74-84、1995
49. 戒能民江「親の教育権」川井健他編『講座・現代家族法第4巻親権・後見・扶養』日本評論社 25-43、1992
50. 戒能民江「イギリスにおける夫婦間暴力と法」黒木三郎古稀記念『現代法社会学の諸問題』(上) 民事法研究会 163-181、1992
51. 戒能民江「イギリスの家族法」黒木三郎編著『世界の家族法』敬文堂 1-27、1991
52. 戒能民江「十代の性と自己決定権」法社会学40号 138-142、1988
53. 戒能民江「単親家庭の福祉の法」小林博人編『社会福祉のための法入門』213-226、1986
54. 戒能民江「子どもの権利と親の権利」『日本福祉大学研究紀要』68号 30-62、1986
55. 戒能民江「男女平等の新地平に向けて」『東邦学誌』第15巻 81-94、1986
56. 戒能民江「男女平等と家族法」『東邦学誌』第14巻 33-48、1984
57. 戒能民江「小作調停法と農民組合運動」早稲田法学会誌23巻、1-34、1973

調査研究報告書（2003年以降）

1. 戒能民江（研究代表者）厚生労働科学研究費補助金政策総合研究事業平成22年度総括・分担研究報告書『DV対策など、女性支援施策の効果的展開に関する調査研究』2011
2. 戒能民江（研究代表者）厚生労働科学研究費補助金政策総合研究事業平成21年度総括・分担研究報告書『DV対策など、女性支援施策の効果的展開に関する調査研究』2010
3. 戒能民江（研究代表者）平成18年度～19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書『東アジアにおけるDV被害女性の生活再建支援政策に関する比較研究』2008
4. 戒能民江編著『韓国におけるドメスティック・バイオレンス政策調査研究報告書』F-GENS Publication Series 27 2007
5. 戒能民江編著『台湾におけるドメスティック・バイオレンス政策調査研究報告書』、F-GENS Publication Series 13 2006

科学研究費ほか（2003年以降）

1. 厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「DV対策など、女性支援施策の効果的展開に関する調査研究」（2009～2011）研究代表者
2. 科学研究費補助金基盤研究(C)「東アジアにおけるDV被害女性の生活再建支援政策に関する比較研究」（2006-2007）研究代表者
3. 21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」（2003-2007）拠点リーダー

受賞

1. 2002年度山川菊栄賞（第22回）を戒能民江『ドメスティック・バイオレンス』（2002）で受賞
2. 2004年度平塚らいてう賞（第1回）を人身売買禁止ネットワークの法制定運動・社会啓発運動に対して受賞